

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	フードデザイン	前期2単位	櫻井幸子	6	7	4

◇科目の目標

栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、健康な食生活を営むことのできる能力と態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。
食事の意義と役割。食物と栄養、健康。食生活の充実向上。等

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習してくることがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ 学んだことを、日常の食生活にいかすよう努力する。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1より順番に送付してくること。
面接については、必要面接時数4時間のうち必ず実習に1回、2時間出席すること。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5/ 1・ 2	NO.1	食事の意義と役割・食をとりまく現状、栄養素の役割・種類とはたらきⅠ	P.6～ 21
2	5/ 8・ 9	NO.2・3	栄養素の種類とはたらきⅡ・消化と吸収 食事摂取基準と食事計画・ライフステージと 栄養計画・食品の特徴Ⅰ	P.21～ 36 P.40～ 54 P.54～ 64
3	5/29・30	NO.4・5	食品の特徴Ⅱ・表示・安全 調理の基本・料理様式・まとめ	P.65～ 92 P.94～129
4	7/10・11	NO.6	調理実習（調理実習の記録）	別紙
5				
6	7/24・25	NO.6	調理実習（調理実習の記録）	別紙
7				

◇テスト範囲

前期中間	実施しない	前期期末	レポート1・2・3・4・5・6
------	-------	------	-----------------

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する

◇使用教科書

実教出版 フードデザイン

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	フードデザイン	後期2単位	櫻井幸子	6	7	4

◇科目の目標

栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、健康な食生活を営むことのできる能力と態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。

食事の意義と役割。食物と栄養、健康。食生活の充実向上。等

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習してくることがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ 学んだことを、日常の食生活にいかすよう努力する。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1より順番に送付してくること。

面接については、必要面接時数4時間のうち必ず実習に1回、2時間出席すること。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10/16・17	NO.1	食事の意義と役割・食をとりまく現状、栄養素の役割・種類とはたらきⅠ	P.6～21
2	10/23・24	NO.2・3	栄養素の種類とはたらきⅡ・消化と吸収 食事摂取基準と食事計画・ライフステージと 栄養計画・食品の特徴Ⅰ	P.21～36 P.40～54 P.54～64
3	11/13・14	NO.4・5	食品の特徴Ⅱ・表示・安全 調理の基本・料理様式・まとめ	P.65～92 P.94～129
4	12/11・12	NO.6	調理実習（調理実習の記録）	別紙
5				
6	12/25・26	NO.6	調理実習（調理実習の記録）	別紙
7				

◇テスト範囲

後期中間	実施しない	後期期末	レポート1・2・3・4・5・6
------	-------	------	-----------------

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する

◇使用教科書

実教出版 フードデザイン

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	家庭基礎	後期2単位	百瀬 正子	6	7	4

◇科目の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を修得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。人の一生と家族・家庭。子どもの発達と保育・福祉。高齢者の生活と福祉。衣食住の科学と文化。消費生活と資源・環境。

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習しておくことがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1より順番に送付してくること。ただし No. 3 実習レポートは実習後に提出してよい。No. 3 レポートの提出締め切りは11月24日です

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	10/9・10	No. 1	自分らしい生き方と家族	6～25
2	10/23・24	No. 2	子ども・高齢者・社会とかかわる	26～65
3	11/6・7	No. 3	講演会（児童文化について）	実習プリント
4				
5	12/18・19	No. 4	食生活をつくる	66～109
6	1/8・9	No. 5	衣生活をつくる・住生活をつくる	110～143
7	1/15・16	No. 6	消費行動を考える・経済的に自立する	144～165

◇テスト範囲

後期中間	実施しない	後期期末	レポート No. 1, 2, 4, 5, 6 ただし実施レポート No. 1～6 まですべてが提出されていることを受験の条件とする。
------	-------	------	---

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇使用教科書

実教出版 「図説 家庭基礎」

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	家庭総合①	前期2単位	百瀬正子	6	7	4

◇科目の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に修得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。人の一生と家族・家庭。子どもの発達と保育・福祉。高齢者の生活と福祉。衣食住の科学と文化。消費生活と資源・環境。

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習しておくことがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートは、No.1(締切5/9)より順次送付してくること。ただしNo.3実習レポートは実習後に提出してよい。No.3の提出締め切りは**6月9日**です(厳守)

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	4/24・25	No.1	自分らしい人生をつくる	12～25
2	5/8・9	No.2	家族とかかわって生きる	24～31
3 4	5/22・23	No.3	講演会(消費生活について)	実習プリント
5	6/26・27	No.4	経済生活を営む	94～121
6	7/10・11	No.5	これからの家庭生活と社会	32～37
7	7/17・18	No.6	高齢社会を生きる	68～83

◇テスト範囲

前期中間	実施しない	前期期末	レポートNo.1～6 <u>ただし実施レポートNo.3が6/9までに提出されていることを受験の条件とする。</u>
------	-------	------	---

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇使用教科書・資料

東京書籍 家庭総合—自立・共生・創造—

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	家庭総合②	後期2単位	櫻井幸子	6	7	4

◇科目の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に修得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。人の一生と家族・家庭。子どもの発達と保育・福祉。高齢者の生活と福祉。衣食住の科学と文化。消費生活と資源・環境。

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習しておくことがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1(締切10/26)より順番に送付してくること。ただしNo.3の実習レポートは実習後に提出してよい。No.3レポートの提出締め切りは11月24日です

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	10/9・10	No.1	食生活をつくる N01	124～143
2	10/23・24	No.2	食生活をつくる N02	144～175
3	11/6・7	No.3	講演会(児童文化について)	実習プリント
4	11/13・14	No.4	子どもと共に育つ	40～65
5	12/18・19	No.5	衣生活をつくる	176～213
6	1/8・9	No.6	住生活をつくる	214～237

◇テスト範囲

後期中間	実施しない	後期期末	レポートNo.1～6 <u>ただし実施レポートNo.3が11/24までに提出されていることを受験の条件とする。</u>
------	-------	------	---

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇使用教科書

東京書籍 家庭総合―自立・共生・創造―

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	子どもの発達と保育	通年4単位	百瀬正子	12	12	8

◇科目の目標

乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。

◇科目の概要

子どもの権利条約と児童福祉。子どもの発達と保育・福祉。児童文化等

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習してくることがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1より順番に送付してくること。ただしNO.12 実習レポートは実習後に提出してよい。面接については必要面接時数8回のうち必ず実習に1回（2時間）に出席すること。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書等ページ
1	4 / 24、25	1	発達と乳幼児期の意義	P 2~3 8~17
		2	子どもの発育	P 20~28 配布資料
2	5 / 15、16	2	子どもの発育	P 20~28
		3	乳幼児の生理的特徴・精神発達	P 29~43
3	6 / 26、27	12	第1回 調理実習「おやつ作り」	実習プリント
4・5	7 / 3、4	4	乳幼児の精神発達	P 44~55
		5	生活と養護	P 58~77
6	7 / 10、11	5	生活と養護	P 58~77
		6	生活と養護 II	P 68~83
7	10 / 16、17	7	生活習慣・健康管理・事故防止	P84~99
8・9	10 / 30、31	12	第2回 調理実習「おやつ作り」	実習プリント
10	11 / 6、7	8	保育の意義	P 102~113
11	12 / 18、19	9	事故予防・保育の必要性	P 85~122
12	1 / 8、9	10	子どもの福祉・子育て支援	P 124~141
		11	私の成長記録	

◇テスト範囲

前期期末	レポートNo.1~6	後期期末	レポートNo.7~10
------	------------	------	-------------

◇評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。